

中国海洋大学海洋文化研究所講演

日 程：2019 年 5 月 31 日（金）～ 6 月 2 日（日）

会 場：中国海洋大学

参加者：小熊 誠 昆 政明

中国海洋大学訪問

小熊 誠 昆 政明

中国海洋大学海洋文化研究所と日本常民文化研究所は、2009 年に協定を結んでからさまざまな交流を推進してきた。今回は、中国海洋大学の教員となっている歴史民俗資料学研究科博士課程後期を修了した王新艶先生に、小熊が講座を依頼されたことをきっかけに交流を推進することになった。具体的には、昆政明先生が科研で訪問し、さらにその科研の代表者である国立歴史民俗博物館の松田睦彦氏、韓国国立歴史民俗博物館の呉昌炫氏も参加した。加えて、歴史民俗資料学研究科の兪鳴奇さんは昆先生の調査協力員として同行した。

2019 年 5 月 31 日に到着し、6 月 1 日に「日韓海洋民俗文化」系列講座」として、小熊、昆、松田、呉の 4 名が講演した。講演テーマは、以下の通り。小熊「海をめぐる文化交流——琉球・沖縄と東アジア」、昆「日本における海事博物館の現状と問題」、松田睦彦・呉昌炫「日韓共同開催の歴史と民俗に関する特別展の意義と課題」（1）（2）。参加者は、文学・情報コミュニケーション学部の学生および院生、日本研究センターおよび海洋文化研究所などの教官合わせて 70 名ほどであった。質疑応答も、盛んに行われた。通訳は、王新艶さんが務めてくれた。



写真 1 中国海洋大学での講座



写真2 崂山民俗文化村における海洋文化研究所の研究会

6月2日には、崂山民俗文化村を訪問した。そこには、崂山湾海洋民俗博物館（海洋館）があり、その地域の歴史（有力な宗族の族譜を含む）や漁具を中心とする民俗資料が展示されていた。また、中国海洋大学海洋文化研究所の施設があり、そこでの研究会に参加した。

小熊は、6月3日に帰国した。6月3日からは、昆、松田、呉、兪は、現地調査を行った。

6月3日の調査は、午前は青島崂山区文武港船舶修所の旧工場および新工場を訪問し、旧工場では、廃船状態の旧型木造漁船、新工場では修理中の稼働漁船を調査した。また、近接地にある媽祖廟を調査し、船舶模型の奉納を確認した。

午後は兪鳴奇さんの調査フィールドである会場社区の漁村を訪問し、主に流し網漁に使用する漁船と漁具漁法について聞き取りを行った。また、海岸に廃棄されていた小型漁船の簡易実測を行い、翌4日に帰途についた。

崂山民俗文化村は伝統的な村落で、家屋も伝統家屋も多く見られた。崂山は茶栽培が盛んで、そのために発展した村落である。村落の歴史と民俗を博物館が表現しており、中国の民俗文化村に興味を持った。



写真3 文武港船舶修所